

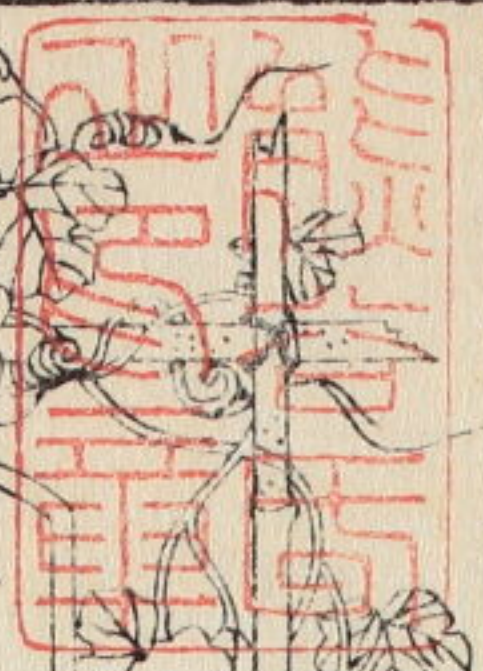
繪本豐臣勲功記

三編

七







繪本豊臣勲功記三編七之卷

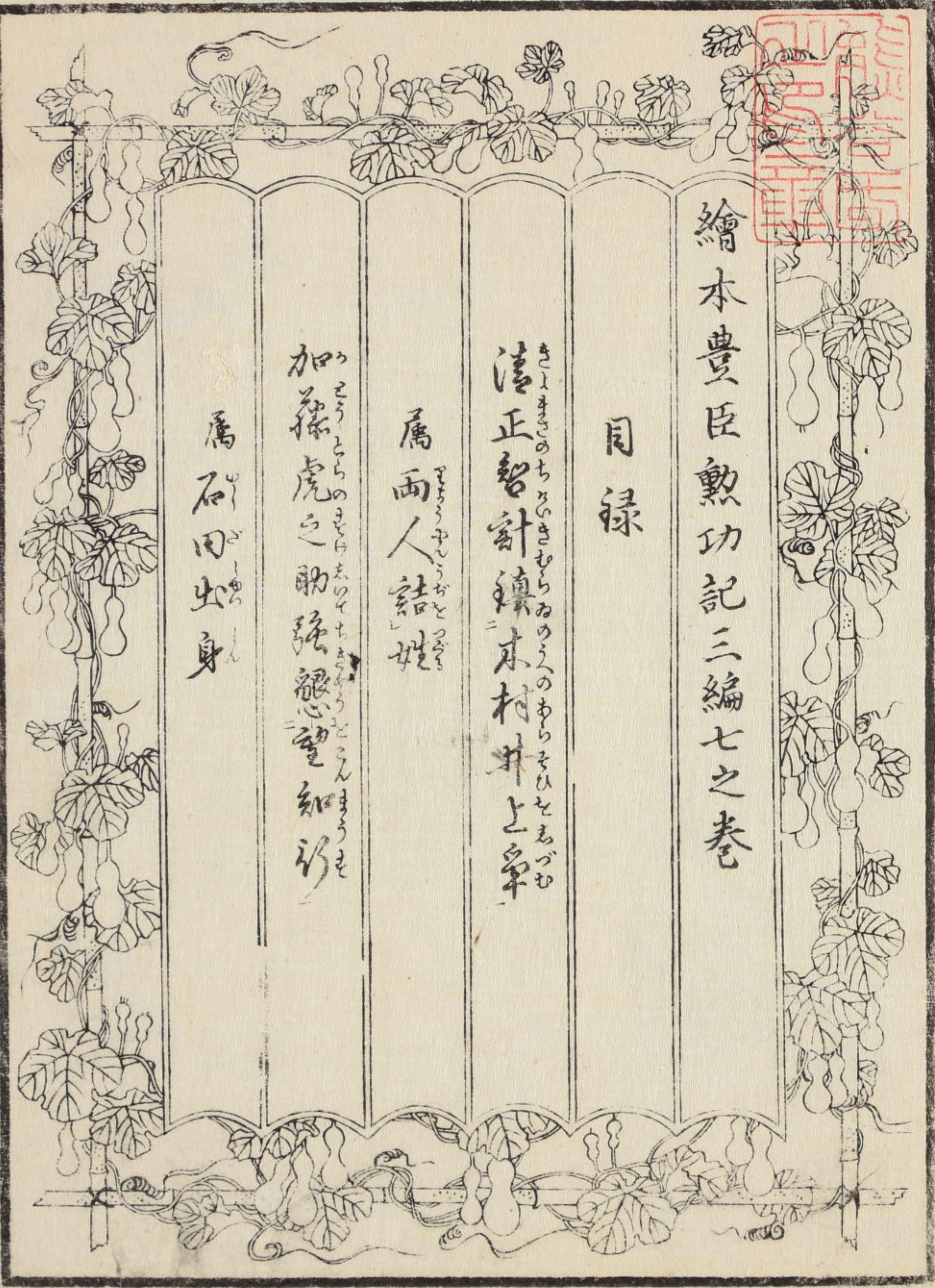
目録

清正智計鎮木村井と象きんぎょのちりきむらぬりのありそひをぶむ

属西人詰姓さいしやうじんじやくせい

加藤虎之助強忍心望知所かとうとらのこゝろをたけしんぞんしんぞん

属石田出身いしだしんしゆしん



Vertical text on the left edge of the page.



備前守長光寺與兼領戰

屬敵新水路

秀吉智計棄籠江救柴田

屬勝家破蒲



繪本豊后勲功記之編卷之七

櫻澤堂小 編輯



智計鎮木村井上爭屬西人詰姓

徳胤をらむ必隣をむと旨ありく村の中村の村小して加藤福島の二英雄を生ること誠小天よく秀吉を補佐りさしひ縁故をじ然れど小加藤福島兩人を驍卒を隨(東地の巷まじ急る輝かく巡らまらるが一日加藤虎之助長濱の城下を離る仔細小見巡り行らるに長濱原と小谷原との場のまぢ小東まき時を不認いなる事ありたるや。寡人態の武士二人は論せして在らりしが於て双方太刀合より一個の面貌色白く若の杖六尺有餘あり。一個の黒き顔色小く。眼光さながら星流如







く。身は杖五尺小過ざりたる。通小修練の壮士小て。用舎出沒電  
 火の像く。激浪よりも疾々まきばのりまが贏小や輸る小や雌雄も  
 更小見(と)こむ。新る所(小)谷より。浅井の駿率數十人出乗り  
 此態を看るよりも。孰個なきが這地小かひて。自己くこの恨小より。  
 道治の軍は妨をぞ。糧籍者面撞倒して。活捉やつと牛込ひ  
 た。虎之助の初成より。二個が不化を見替りたるが真術逆小  
 尋常ならむ。是凡人小あらざるべし。方僅浅井家の駿率  
 軍小摘させんも不便あり。思材を听て結めをやとふ人を驚き  
 どあ人も一心不亂小戦ひるまは。他の詞の耳小も容をぞ外駈  
 へ女房と見へる所へ浅井の駿率四方より。簇々くと起る。手  
 小争小得道具携来り。うち倒さんとや。はまは西士をく。憤

怒せ勢し。憎き奴軍が拳動くる。武士の刀をせ收鎮小。作法  
 も知るぬ奇怪さよ。先這奴們を殺すて后靜小。諸員を決を  
 置し。と音物せり。た右小別を浅井の駿率小。是向ひ太刀  
 風掃く。吹起るまは。恥を知らざる小。率軍一遮小も是らばこそ。痛  
 小惱め。紅緋葉は。風小巻く。像く。東小龍を。西小散。眺くも  
 颯と連走。然る小。色白き。備漢加藤が。名士と率從(隣)畔小  
 見撃して。其(ま)じ。浅井家の駿率と。懐誤り。る。じ小。や。傲塵  
 小せん。と。吹く。菟。加藤の名士們。是非なくも。打合を。清正  
 んく。彼備漢小。を。係ひ。斯(こ)の。理非。知る。ぬ。侍士。の。我を。使  
 より。其(ま)の。方。何(な)が。率。論の。譯を。問んと。欲し。声を。く。ま。と。音。も。なく。  
 射て。我隊の。名士。輩小。吹て。菟。れ。る。を。法の。拳。動。酒小。性。根。を。棄



とも色一かまとも見一ぬ修練の志刀合尋常ありぬ最重の勇士備  
 くの思ひて徒死やせん然らば法を乱せるまじし評を遂に  
 ぞ擲めよと指揮ありは是れ士輩に擧げんと是れ最重の勇士備  
 白ふかりひらん提さる刀抛棄て捕めよと覺悟の体小虎之助見  
 て新しき流演あらんと程縁うち緝捕の勇士們思慮も及  
 ばず左右なく緝捕さるる。對敵の漢子をも返り此態を視  
 之を怒らる。志は我儕が對刀なり。いさよ勝負も決せぬと  
 心細めらるる。何事ぞ。さきよく對敵とこそしはせと加藤が勇士小  
 股を薙ぎて這奴も兵法をさる者なる。汝が對敵を得心一介刀を  
 扱へ緝められし。と不謂も知らて横際より。敵薙るこそ不當なり。  
 我らば是非小及る。這奴もとも小擧げんと大擧一介小とも

薙るを清正の志士小声をうけ。酒小狂つ者なり。疵つけぬや擧よと  
 制しむがら小自後が各重て虜らる。後公軍の號をこら。まど齡年  
 き清正の志功を他小見せんとかかり。迷軍起る帰らんを。と  
 清正軍の弱々も思慮深くして志を止免。あ士を森の  
 本陣小体ひ。懸勅小渡をさる。朝志づら小重し。さるやう。  
 柔房二人の態を視る。勇氣といひ武藝といひ。矢嚙蓋せ。法  
 個々なり。斯く戦國小ありむがら。良を擧てこそ小仕へ。涯の志  
 せ。さる。ま。立身せんこと疑ひ。さる。然る小息。磨る。遺恨あり  
 小や。うら果し。ゆし果さる。もして。後換せんことを。来りて。朽慥し。か  
 ね。さる。新重を乃。量ハ長演の城。木下。吉。秀。吉。が  
 臣家。加藤。虎。之。助。と。い。ふ。者。あり。者。ら。る。如。死。若。軍。が。ら。人



の命を蒙りて領地の非常を戒めんため。巡合せく方僅波所  
 小某方達の要領を視遣を益の事と存し。由へ移返制し  
 止めあり。中小純て偉漢も。緝捕のまさ小捕めんことを  
 倉卒小提す。刀を抛棄。覺悟の縛索を受ら。一に定めて曉  
 漢はあつ。縛ならん。その方各遺恨もあつて。互別るべく。致ち  
 返さん。倘も思つれば恨怒ありて。是非小借負を決んとあつ。事  
 の思枝を演説あつ。道理小稱す。致固して心は随小爾とし  
 めんと。理非分。月小説。所せ。二個の縛索を解放ち。遠响  
 友人醒醒て。宛着の情味。一々。稍ありて。偉漢面目。げ小  
 を擡げ。かそ。く。重く。さう。小子。今日。持。氣。と。消。さんと。酒。店。小  
 扱。く。一。番。と。傾。け。し。小。か。り。も。も。沈。醉。は。あ。り。小。牙。を。耳。す。れ。

又事の命を失さんとせ。釋久もくも後悔あり。今更懇愧小  
 堪ざまども。我身のうへを所し。せられ。小子早く。父小。去。ま。母一  
 人小。順了。戦國の世。小。信。身。の。良。主。を。討。め。奉。公。せ。ん。と。思。ハ  
 ざる。小。あ。ら。ざ。れ。ども。然。と。ま。ま。這。身。自。由。あ。ら。む。何。と。も。期。ら。ぬ  
 軍事。ある。を。倘。我。戦。場。小。殺。死。せ。ば。殘。ま。る。老。母。を。誰。う。ま。う。養  
 はん。者。の。作。つ。れ。そ。ま。を。懐。く。新。漢。若。く。零。落。ら。が。ら。も。ま。ま。と。言。れ  
 ば。貧。乏。せ。耳。ん。と。朝。夕。小。母。の。心。は。隨。く。と。世。を。推。渡。せ。ん。べ。う  
 一。か。老。母。近。來。病。は。枉。さ。ま。良。醫。を。往。て。視。せ。し。む。小。老。後。の。病  
 症。藥。餌。小。か。よ。ま。を。唯。懇。切。小。父。抱。せ。よ。と。教。め。る。小。より。心。を。竭。し  
 今日。も。も。孝。行。し。つ。る。が。不。圖。さ。分の。財。を。得。と。ま。ば。切。り。母。の。口。小  
 稱。ふ。魚。肉。を。食。得。ん。ゆ。は。と。長。濱。の。街。へ。出。来。り。ぬ。期。あ。る。母。の。命。と



園よりもそめ別離の悲哀さ小心のよく結まて落る涙のせは  
 散ぬを終らさんこめ酒肆小投心帯て酒をまば一杯傾け喰使  
 母小面を思んせんものとかひひしとも頼てより好む癖ある海量の  
 愚昧二重を酒飲過し自己を忘きて連行樹の陰小所創を  
 一が酒を小把さる懐もぞ争論を傲散し道を通る戦ふ  
 うち貴士の一言膽を貫た徒換せんとの詞小和忽地酔も醒  
 果て顔小母を思ひ悩む搦めらるるバ彼男と勝敗をさき災も  
 適まぬべしと意づき故意を禮の事を奉止邪締結せうけたる  
 あり然る小志者活き計行小あづる條我身の歡喜をうくも  
 つく詞小も漢尽さるを對刀小あつ侍士ら原末智ま小あ  
 らざらば遺恨あるべし涙故なり全く酒狂のまを言あり是小

も當て乃身小恨あるべし事ハあらじ連小劔痴のまを社  
 幸を退別まんとあらバ飲一やと自身のうは始終せ  
 も藏さる語りろ小ぞ虎之助も然こそあつめと感入るま  
 たまバ對向の宴士もこれと所返答さるも口屈をう一遭ハ感  
 佩し一ふびハ歎息し稍點然としてまらうしが義膽小せ  
 る涙を拭ひ威儀倍ふく重なるや今戦國の操意と  
 して臆を厭ひ剛を慕ふて勢威を競ふ世の中おまバ昔倭も  
 新學實へし蕩りて三身せたるやとかひ以諸國を巡り奉  
 公を擇ぐ心の惱まとも零落る小極る身を彼勝らんとま  
 名類さし昔採むる武士の身の平生といひと意穢く田更  
 野人の貯藏を棄採人も不便あり何とうせまじと固めらまら



彼道流と行機會より一個の武士が熟酔して樹陰小其圃  
 として親着とくを傍よくく親も衣履小相應とぬ常せし  
 其刀尋常ありじと徹目より定めて遠奴も常經の族して  
 他の秘藏のた刀小刀を採捉するりはならん先遠奴面を殺殺  
 奪取んと悪心生じ肩便刀小手と把して昏く熟睡せしは  
 殺ると鄙怯の巻止しと勇士の羞る不あり然らば醉て喧嘩  
 と做菟殿果さをもと思ふ小より酒を求めて直飲し兼を  
 かんらるる如く開ふことと十余合小及びひらる小子諸國を經歷し  
 教多の勇士と對敵小せしと遠漢などの修練小値偶を心中  
 大小感むとひとみ猶うら果して刀を採んとかり小澤さ入遊小備  
 ても郷ゆられしも天命ありと心せ悔む機會もむる方僅この

漢子の門禪老母小孝を盡さんとく袖を堪ゆる不志ハ己が  
 悪心とハ雲泥墨雪聞とびごと小肺肝を刺し如まかりひせり  
 今更勝を遣ども詮なりは過を草めんとも我悪心と誅るなり遠  
 來赦免せらるる事此上もな死恩澤ありと惠演る小虎之助切  
 弱なれども源慮の者由へあ士が殊心を死感と。襟底より一封の黄  
 金を取放し。こまを二顆小配分なり。まづ偉漢小あつてのりやう  
 是下の老母の心小随ひ孝養を竭むる志情感むる小猶ああり有  
 きバ御ながら遠黄金と分與する不あり。ゆりとも既興とこの金  
 ち乃るる私の料理ならむ平日米地を巡撫する小不時は災  
 難或はあり。困窮せしむる倫輩より行一ながら世のさめ小  
 落なせし族あらば号を服へく目下。危急を救ひその上小も其



清正の仁智

よく木村

井上と伏従

む





倫輩の不忘小應とて。搦搦とて。と頼てより。地頭する人の定置  
 色一恩澤厚き金子なり。隔心なく受納せられ。老母の病ひを  
 養ひ玉へと。最懇切小言諭し。まご守封の金を取つて。封向の  
 漢子小推搦此せり。て衣服を調達奉公仕官を搦死ゆら。搦  
 之。屏悪を發されりと。教導せし。二個のとも小弱年ながら。虎之  
 助が厚き情志の詞小感と。落る。潤小暖かて。要時ハ。公語も。江  
 詔ざりしが。稍ありて。偉漢俺們。糸小酒狂の刺。上。所領分を。強が  
 せし。ゆえ。そまぐ。の罪小取せらるん。偉。天下の大法。なぶれ。と。そ  
 罪とさへ。厚く。赦免せらる。の。おらず。多分の金子を。賜。と。偉。所  
 領。稟。と。小。詞。と。知。ら。む。と。おれ。と。辞。遣。し。糸。と。せ。ら。る。六。猶。失。後。の。罪。と  
 累ねん。國主の仁惠貴士の恩義小随ふ。く。祥領。つ。ま。つ。り。母。が

病ひを養ひまふさん。母百年の身と。禁ら。ば。后。少。心。然。糸。上。なり。  
 遠大恩小報と欲を。ま。响。小。こ。そ。見。奈。玉。と。て。大。馬。小。代。て。は。む  
 た。多。と。洞。と。共。小。控。詢。バ。對。向。の。漢。子。も。詞。と。共。小。し。加。藤。が。賜。へ  
 金。が。一。載。き。思。ひ。設。け。ぬ。偉。小。より。山。海。小。も。勝。る。恩。義。と。糸。小。報  
 ゆ。り。小。その。術。と。知ら。む。其。大。恩。小。報。ひ。ん。む。ら。む。こと。誰。と。そ。も。同。心。あり。  
 擡。く。や。我。も。母。も。なく。ま。ま。哺。む。べき。妻。児。も。好。く。心。小。儲。け。  
 家。り。な。る。ま。ば。衣。服。を。調。へ。草。て。何。國。へ。向。く。推。糸。と。ま。む。き。度。希。へ。今  
 より。直。地。小。貴。君。の。辨。小。召。置。き。薪。水。の。用。小。當。ら。む。と。ら。ば。遠。方  
 の。願。望。満。足。せ。り。小。居。新。ま。で。淺。間。へ。零。落。し。て。小。得。む。も。原。中  
 國。の。侍。士。と。て。父。ハ。周。防。の。丈。内。家。小。仕。へ。忠。義。を。勵。ま。し。勤。力。せ。し。と。君。臣  
 の。縁。誼。小。や。義。隆。主。の。滅。ぶ。時。ハ。他。國。小。立。ち。死。後。も。甲。斐。交。り



命を知らずち毛利元就志をく招けど二君小仕へぬ義を因  
 ず。身を山林の内小隠して石を汚さまを終りと遂う。小隠  
 其時の切雅ありしを源家は者小養育せられ。不見の如く成  
 長く。今年十一歳あり。父の播磨大村の侍人井上興次郎  
 子岡苗大九郎長吉と申す者あてはり。叔父ありは井上五郎長  
 小子とりて小早川家へ仕官せ初めは。父の本意小背くがゆえ小  
 毛利一家小仕へて。宴々つらつらひひぬと身の大駭を告られ。バ  
 虎之助听て感悦なり。我弱衆小して兄弟とゆふのみかく腹心  
 とまべり人を得んとかり。と所領の地もなまは。技藝を脱ふるカ  
 ち。各とも小仕の勇あり。然るに大家へ仕官。随分。立身せ  
 らる。然るを後の寸志小侍さま。我小仕へん不志。身小余もま

歎む。然も斯る世の中のみ。我も一城の主となる。利運あり  
 ともひびく。よく又我と助け。涯分の忠を竭さま。功名遠く  
 四方小國へ榮花へ。子孫を傳らん。偉心然あり。と脱身而  
 小あらをきて。主將の威風へ。彼偉漢も頭を擡げ。洞を  
 拙く言登るやう。信義を君臣の道と。みま。い。な。ど。り。賞。禄。の。多。か  
 と。謂。え。ん。や。烏。許。ま。あ。ま。ど。小。隠。が。素。姓。も。一。應。云。仕。せん。祖。父。多  
 源氏の度流なる。佐々木の一旗本村源之成綱の後胤。本村又  
 と。粟。一。門。あり。多。佐。々。木。六。角。系。極。とも。いつ。う。味。遠。小。あ。れ  
 ず。形。る。寡。々の。牙。と。あり。ぬ。ま。ど。心。を。う。ハ。昔。を。學。び。城。持。流。小。あ。る  
 る。ま。じ。只。塘。し。ま。ハ。吾。君。の。系。み。お。微。少。小。ま。し。ま。せ。ども。仁。義。禮。智  
 小。長。く。あ。ふ。こと。老。翁。も。及。ぶ。偉。あ。は。し。形。る。明。を。守。達。ま。あ。ら。せ



末代小名を傳へんこと。開も小居が本意小作。遠くぬらち小立返り。忠勤を懋と申さる。と盟約なして列藩を報古師をさして辞去る。大九郎へも来小虎之助小随従なり。長濱へこそ帰され

加藤虎之助強慾望知行 属石田出身

頼伽ハ卵殻と出さして。生声衆鳥小勝るとり。今加藤虎之助清正年終殊小卑うしうごも。天下小秀一英雄と二個まて居とさる。澤實小九あらざる。澄あり。然バ君臣の縁熱さる。响の天無小至る小や。清正既小大九郎を抱つて長濱小帰里しうごも。いまご領さる。知行おけさる。いへせんと思惟。さる。大九郎早くも去るを察り。清正小朝ふて。いりさる。吾公友の。愁ひ

とある世小大丈夫と者ハ心と君とこそ。怙め米袋の多さを恃。ととせど。漸意寧くおろしめせと。練る詞小虎之助。猶頼母く思投。松く秀吉の。出小居弱来小出。柳所存。ハバ知行を定め玉え。と餘義もなげ小東出さる。秀吉所て。其方いまご卑卑。従令知行を。賜ふる。こも。自分小賄賂。難くべし。往日来長成。壯バ知行も。眼へ老堂。せも。抱得。さ。申。を。あり。と。い。ふ。を。法。正。無。む。出。軍。も。と。も。老。堂。み。け。は。心。は。隨。小。功。名。あらじ。固く。良。居。を。技。藝。至。十。分。小。播。む。や。と。好。一。起。て。い。え。鳥。許。ある。願。も。つ。う。ま。の。了。ぬ。と。所。て。木。下。ら。ち。笑。ひ。も。所。志。も。神。妙。あり。然。さ。も。を。代。田。海。部。を。て。諸。國。の。英。雄。豪。傑。倭。録。の。為。さ。小。徒。え。と。官。法。果。さ。を。凡。を。じ。さ。を。我。さ。人。諸。阜。の。奉。公。



分ぶん小こくく。いいままごご大名だいめいの列りゅうららむむ。固こくく。柵さく家けががトト一いくく。無むぶぶ兒に勇ゆう士しの  
 任にん官くわんを討うめめを。然しかるる。小こ某ま方ほうを主しゆと憑よまん者もののありも思おもは  
 せむ。驗げん小こも可か愛あいのれる。簡かんひひままごごも。年ねん至しららぬぬ。バ家け政せいも疎そ  
 一い。今いま姑こくくを試し延えんししねねと飾しやくるる。加か藤とう強きやう塔たつ。君きみは命いのち小こひひへ  
 ども。祿ろくを望のぞみて奉ほう公こうをを。高たか酷こく武ぶ士しをを。他たの強きやうを  
 兼けん听しやうららぬぬ。小こ臣しんが技ぎ養やうと存ぞんむむ。武ぶ士しの當あた日ひくくの不ふ會かいささん  
 ああまま當あたくく。望のぞみみつつままのの。重おもききをを。小こ秀しゆ吉きち備びのの。清せい正せいをを。既すで  
 臣しん下かを結むすららひ得えとと。是こも。技ぎ持ぢをを。祿ろくのの。死しまま。小こ新しん云い。衆しゆ  
 ものもの。ささぶぶ。いいららるる者ものをを。技ぎ抱うんん。かかががへへららとと。懐なむむとと。いいららるる。  
 虎こ之の助すけ小こらら向むかひひ。備びのの。柔じゆ方ほうのの。ここししてて。臣しんをを。覺おぼ得えるる。ああららん。  
 如いのの。るる者ものとと。問とてて。清せい正せい膜まく評へいてて。威い儀ぎ極ごくひひ。命いのちはは。如ごとくく。まま者もの

を。をを。移うつすす。ちち。是こをを。小こてて。ひひららとと。井い上じやう大だい九く舟しゆをを。伴ばん出しゆまま。秀しゆ吉きちをを。  
 是これれ。くく。視しるる。にに。眼がん光くわうをを。ままとと。くく。ししてて。射かるる。がが。像ざう。くく。骨こつ方ほう飽あままをを。悍かんままし  
 らられれ。バ。是これれ。徒と軍ぐん小このの。ああららむむとと。思おもひひ。由ゆ緒じゆをを。問とハハ。大だい九く舟しゆ始し終しゆうつ  
 ままごご。重おもききをを。小こよりり。秀しゆ吉きち大だい小せう感かん心しんなな。誠まこと小こ祿ろくをを。心こころとと。せせむむ。義ぎをを。  
 必かならずくく。身みをを。達たつるる。形かたち志し。大だい丈ぢやう丈ぢやうのの。士しとと。謂いふふ。べべ。虎こ之の助すけ小こハハ。過とが分ぶん  
 の老らう黨たうとと。いいふふとと。いいららどもども。遠とほ弱じやく官くわんもも。徒と軍ぐんななららむむ。をを。生なま長ながるる。後のち  
 小こ至しらら。一いっ國こく一いっ城じやうのの。ままとと。いいらら。汝なんぢよよくく。補おぎな佐さななしてて。軍ぐん事じをを。  
 教きやう導だうせせららむむ。虎こ之の助すけもも。大だい九く舟しゆをを。懐なむむ心しんとと。してて。柔じゆ事じをを。結むすら  
 ひひ。そのその。宜よろしし。死し小こ願ねんややくく。自まづ便べんのの。胸むねをを。一いっ枝し小こなな。大だい勳くん功こうをを。達たつせ  
 すす。ややとと。下か稱しやうのの。隅ぐまなくく。親おやぢ得えららむむ。虎こ之の助すけハハ。五ご百ひやく斛こくのの。知ちりり。末すえをを。  
 究きゆう行かうせせむむ。物もの見みるる。冬ふゆのの。積つりりとと。てて。衣い履ふ金きん銀ぎんをを。相あ應おう小こ大だい九く舟しゆ



一服へりて井上殿の義法小僧に嘆び恩を謝してぞ退出しける。  
秀吉井上とて親送く。感慨多きこと終日休まじ。久米叢  
書く野外の里や鼻も味に淡苔の隈お世を道きてし  
武士や或は恨し隠者やあらん尋て試みよと思ひしは長溪  
小近江を涯の綱を鷹狩などして巡見し。神社佛堂を  
禮拝しつゝも武運の祈禱と名づけらるる料足或は田林を  
附せらるる昔丹波を過されるる。當日観音寺といふ山寺  
小糸結せられ雲時玄關小休らひるる。任寺に僧馳  
走しるると秀吉こそを望み制し。柳家が休息をとりし  
意形もど。懐くや之宝物を犯さん律や。只願くは湯小  
堪る。湯がら賜へとありし响筆字のこめ小寺小まらる。相

貌艶し一少年あり。住僧渠小口属て木下小湯を献せ  
しむ。秀吉こそ小目と属られ。此山寺小似相ある推量やと  
姑く看著て居りしが。今一挽と不望せらる。己前の少年應し  
て恭しく呈出。這遣の湯へ初小比をま。加減の少し熱う  
しと。秀吉もつゝ小整らる。是徒輩ゆいあふどとありし住持  
の僧小うち素ひ這少年の患廢なる者ぞと鞠小鄰家の侍  
あるが。筆字は為小寺入せし。頼く小答ら。秀吉少年を  
とづけ。這湯へ少年心ありて抄束りし歎難ぞま。加減の指回  
しつゝは歎け小答ら。加減し。抄束らるるは作作  
喉乾くを至ふより。湯を飲させよふより。熱く急し  
くうらん。と推量りてまらる。故と渾味小加減し。参らせ二碗と作





木下秀吉  
巡檢  
石田佐吉  
商



豊後言三



屬らまゝ一由一遠遣ハ初度不ど乾クせ至とし。熱くせたりやと  
 一ツ尻。新ハ計らひとてまづぬと声も調も清一ハ小曲を  
 秀吉所玉ハ相懇としハ行義としハ目ハ心中の善略としハ  
 尋常あじと賞賞したまひ。思ふに。信信おらち向ひ遠少  
 糸を得させん小やと懇望をたたりありなれば。少糸は父  
 と呼よせ如くの詞を言所らる小其父秀吉の弟小出らり。秀  
 吉渠が素姓を問ハ。累代石田村小住居せし。百姓佐五右衛門  
 とりひつるゆは小て。先祖ハ武士らる言傳おまとも。素素小世を  
 宜しと過せり。切てハ續兎一個ととも。武家小奉公させまく思ふ。  
 心通トらる。傳小や。地領の洲目小と名置ハ。水望のよしと  
 稟官らり。秀吉大ハ満悦せられ。少年の名ハと問せと多ハ。

今年十有二歳小して。名ハ作吉とぞ答へける。然らバ汝ハ其西の  
 名せりて。石田作吉と号るべしとて。直地小主従の契約せられ。  
 尋便具して申らる。治長漢の城小歸らるらり。  
 勝家守長光寺與兼頼戦属敵断水路  
 一石圓小して。萬歳これ小觸る小。るらぞ。碎けとりの小傳  
 小。茲小江列武佐輝長光寺の城ハ柴田權六郎勝家ハ  
 百餘騎小て軍城一とせ。六角兼頼敗士と集ぬ。ハ氏候を  
 兵の擁らふて。五千余人と引來し。長光寺は城を攻めや。と元龜  
 元年五月廿有一日。稍篠の弟と分る。割頭喊とつらて。推しを  
 らり。并も長光寺の城としハ。平場小築きし。要徑をさへ。憑  
 とまづ。結構らる。とて。懸て六角兼頼唯一搦小せ。元龜

豊臣記三編卷之七



諸城とも。藩主のさんと謀らう。時小入道諸  
 軍小魁を。各目らるる。遠小城の垣も。あつぞ。し。只一息  
 小隘さよ。と。法勢を。烈し。続も。ま。れ。バ。の。び。も。備。氣。は。喘  
 推鞏。こ。ま。と。し。と。進。侍。奮。向。不。背。と。攻。起。ら。然。と。も。城。を  
 柴田勝家素より。所。之。極。將。多。う。こ。ま。と。依。老。黨。小。柴。田  
 源。左。衛。門。同。新。左。衛。門。平。右。衛。門。井。上。久。八。中。村。共。左。衛。門。を  
 以。つ。究。竟。の。勇。士。あ。り。ま。う。か。敵。の。進。ま。り。も。ま。ら。ず。統。と  
 子。孫。く。擊。蕩。敵。陣。正。黒。小。白。さ。る。不。へ。驍。急。と。う。く。之。百。余  
 騎。関。門。八。丈。字。小。推。用。渦。巻。敵。陣。中。へ。槍。并。間。つ。ら。て。冲。て  
 奔。る。中。小。も。大。將。槍。六。傷。家。年。末。把。勢。し。ま。う。大。十。丈。字。の。長。槍  
 と。霹。靂。の。像。く。小。擡。起。く。四。面。小。鼓。八。角。小。鼓。人。を。死。傷。せ。り。

如く。こ。ら。鬼。と。呼。ま。る。る。面。毒。の。見。て。怖。れ。れ。バ。一。息。も。又。向  
 不。り。の。り。く。忽。地。崩。れ。て。散。亂。を。勝。家。軍。中。小。賢。々。ま。り。れ。り  
 進。ま。と。退。却。せ。り。敵。軍。を。纏。め。て。退。却。を。兼。須。入。道。大。小。魁。り  
 甲。斐。の。自。首。の。輸。送。も。多。く。も。あ。り。ぬ。城。を。軍。小。威。と。つ。け。し  
 事。は。悔。し。ま。う。先。惣。軍。が。攻。潰。せ。と。烈。火。の。像。く。憤。り。と。ま  
 雲。新。左。衛。門。推。止。め。城。中。の。公。士。勤。ま。り。ま。り。と。知。る。勇。士。中。を  
 必。死。を。期。し。る。宗。城。の。れ。バ。を。休。の。軍。へ。自。兵。小。擡。あり。ま。り。今  
 日。の。諸。軍。を。休。ま。せ。翌。天。朝。風。の。涼。く。死。う。ら。小。針。槍。を。殺。け。て。攻  
 る。小。如。と。城。攻。の。方。便。を。叫。び。ま。り。入。道。の。怒。を。収。め。當。日。の。戦  
 を。止。め。り。曉。も。れ。廿。二。日。の。早。外。惣。軍。を。り。く。舊。地。小。推。進。之。を  
 か。指。揮。の。方。便。小。隨。ひ。二。千。五。百。と。と。隊。小。率。敵。五。百。人。づ。二。隊。を。

豊臣記三編卷之七

十一



今通事  
長官の  
長官の  
長官の  
長官の  
長官の  
長官の  
長官の  
長官の  
長官の  
長官の

左右の絶不埋伏させ。一千五百を二の見とる。遙隔陣小勦  
させ。二千五百の各士をりて。城際をく推進させ。喊せつらて  
威を顯し。今天こそ是非小業取めと。辨極くせ先起。城中  
もさる。昨天の如く。粉膏をく拒抗するも。進名の傷七数し  
く。隊伍を棄てて。再び敗走せんと見くられ。喘氣の勇士  
六十人。喚叫んを。擡着。勝家こそと。視く大。喘氣の勇士  
慮。浅き公軍。於。今天の軍の突費とも。自軍小利を  
使。還入を返せくと。指揮をれども。已敵中へ。冲投する。敵を  
方便のあり。事由へ。右横左横。小敗亡する。と。おり。あやと。い  
を。呼ら。勝家が。指揮を耳。おも。け。を。穿。と。致。ら。し。ぶ。是  
を。救。ひ。通。さん。と。て。城。兵。三。百。有。余。人。續。ひ。て。善。地。小。強。出。す。と。云

勢た来つこれせつん。二の見小立。一千五百柴田を迎。て。戦  
音号をり。つて。初。を。れ。た。右。は。仕。合。へ。子。全。強。威。を。あ。い。せ。て。鼓  
と。ち。後。を。輯。断。その。隙。小。進。兵。の。二。千。五。百。余。騎。城。小。向。あ。く。せ。先  
着。攻。つ。け。村。ま。と。も。撃。ぶ。も。事。と。り。せ。む。流。丸。を。諸。越。箭。を。拂  
を。遂。小。一。重。の。摠。構。せ。う。ら。破。得。く。乱。入。を。柴。田。の。敵。を。最。後。小  
を。見。詰。熱。寒。小。来。り。て。戦。ひ。ら。う。が。後。の。敵。小。摠。構。を。破。ら。れ。ら。う。と  
視。く。く。れ。バ。愕。然。と。し。う。ら。驚。き。備。本。丸。を。取。ら。と。て。い。遠。和。骨。體  
小。及。ぶ。一。此。の。く。死。を。う。命。を。有。抱。本。丸。小。入。く。戦。死。せ。ん。と。大。喝  
一。声。取。て。逃。し。彼。敵。擒。を。擡。起。振。を。石。突。より。峰。尖。を。血。小  
深。く。さ。る。不。も。さ。く。果。小。虐。を。憤。腕。の。帝。釋。天。王。八。臂。を。振。か。く  
修。羅。軍。を。趁。が。像。く。り。六。角。地。の。多。し。とい。へ。とも。遠。勢。威。小。當



柴田の猛勇  
一遭六角の  
軍勢を破る





るゆはまぐ。散く小搦起らば申せ用ひて通し。諸家得し  
と馬と跳らせ難ひく一方せうち破る。徳構せうち近入。喝  
巻列せうち六角搦せ前後左右小搦飛し。自公を纏めて  
才も辛く本丸のうち不素り入り。城戸を固めて支へる。驗小も  
天下小鬼と呼こと。偽あらじと款なぐらも或ハ感ハ。あまひハ驚  
き。柴田が所者を讚嘆せり。猪家の本丸小投極し。自公を見れば  
二日の軍小或ハ重敷或ハ輕敷負さるゆはとて一個もなく。所儀ハ  
いよく小搦と知り。殊小ハ戦ハ疲まらるゆハ惣構ハ破らまら  
最頼憑のまくなりまども。方丈不當の權ハ所をこしも屋せど  
諸士と懋まし。勇氣と合ぐ。謂らるゆ。樫家ガ命のあらんゆは  
這城中ハ敵といゆゆは。一個ありとも。投まじまぞ。款を怖ま

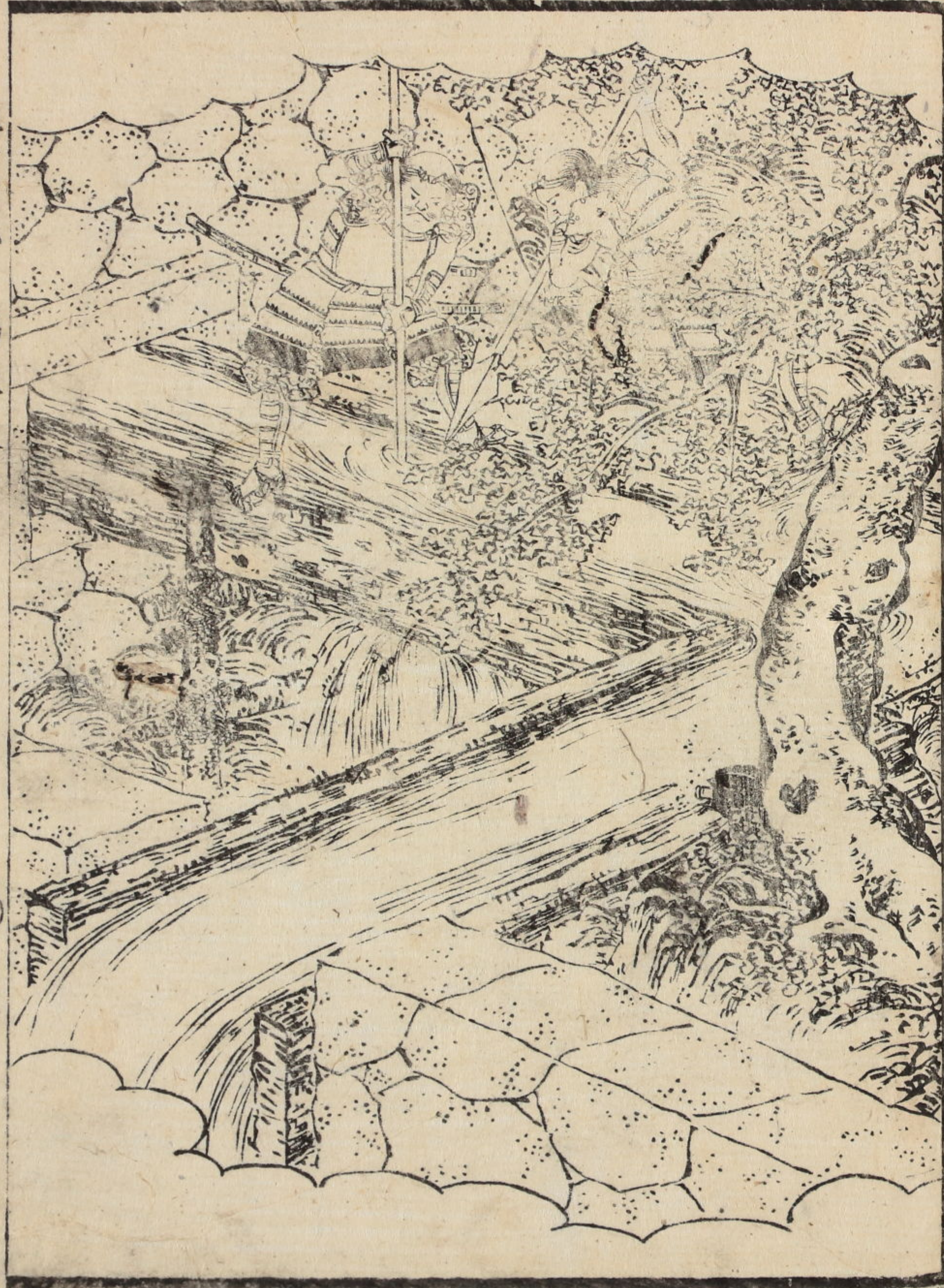
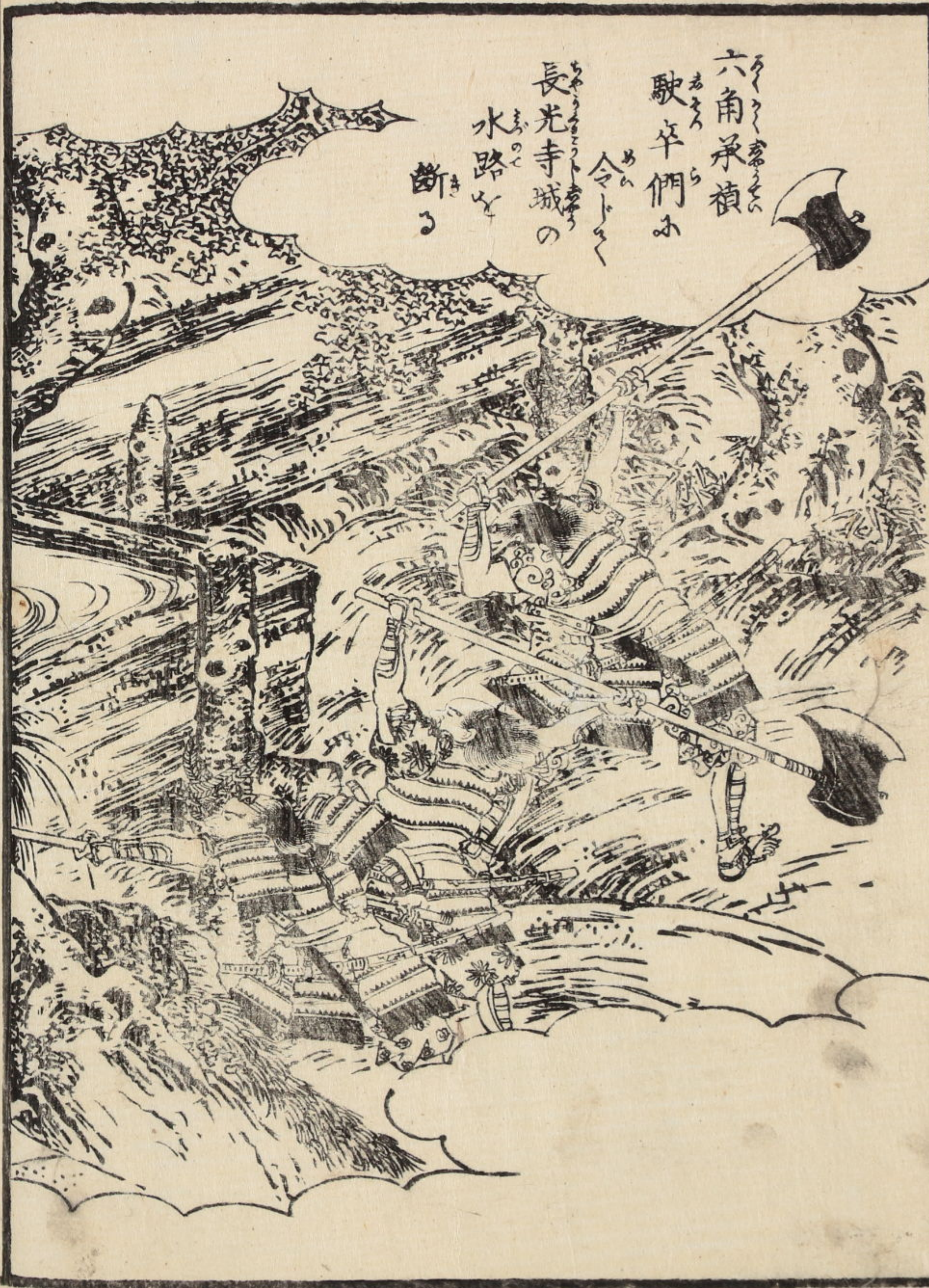
を憤志せよ。千辛万苦をさうちの自公の後援もある。屋死  
ものせ。然なくとも。是當城ハ己色傾ガ墓不と心と決せハ身  
て安くありさる。勢く脱氣を折まさせそと。教訓ありて。防衛  
をままら。佐々木の軍勢ハ日々方術を工夫して。展習く。攻め共  
落城まづれ。氣色もいへぬハ。こ雲まら。工夫なり。五人を勅めて  
淺井家へ和睦の詞を謂容らま。長政こまを大事ありし。佐  
木淺井家和議せり。猶も。越前ハも使者を達朝倉家を  
合辭させ。之方一度ふち起つ。織田家を包歩小おさんと  
計り。六角家の柴田が守城。長光寺を攻め。長政ハ本下  
凝ち。長淡の城を攻落さんと。軍の誅滅せられ。然れハ  
兼頼入道ハ。淺井の合辭を大小。早く當城を攻臨し。自軍

豊臣言三抄卷之七

一七



六南承禎  
歌卒們ふ  
今トク  
長光寺城の  
水路を  
断る

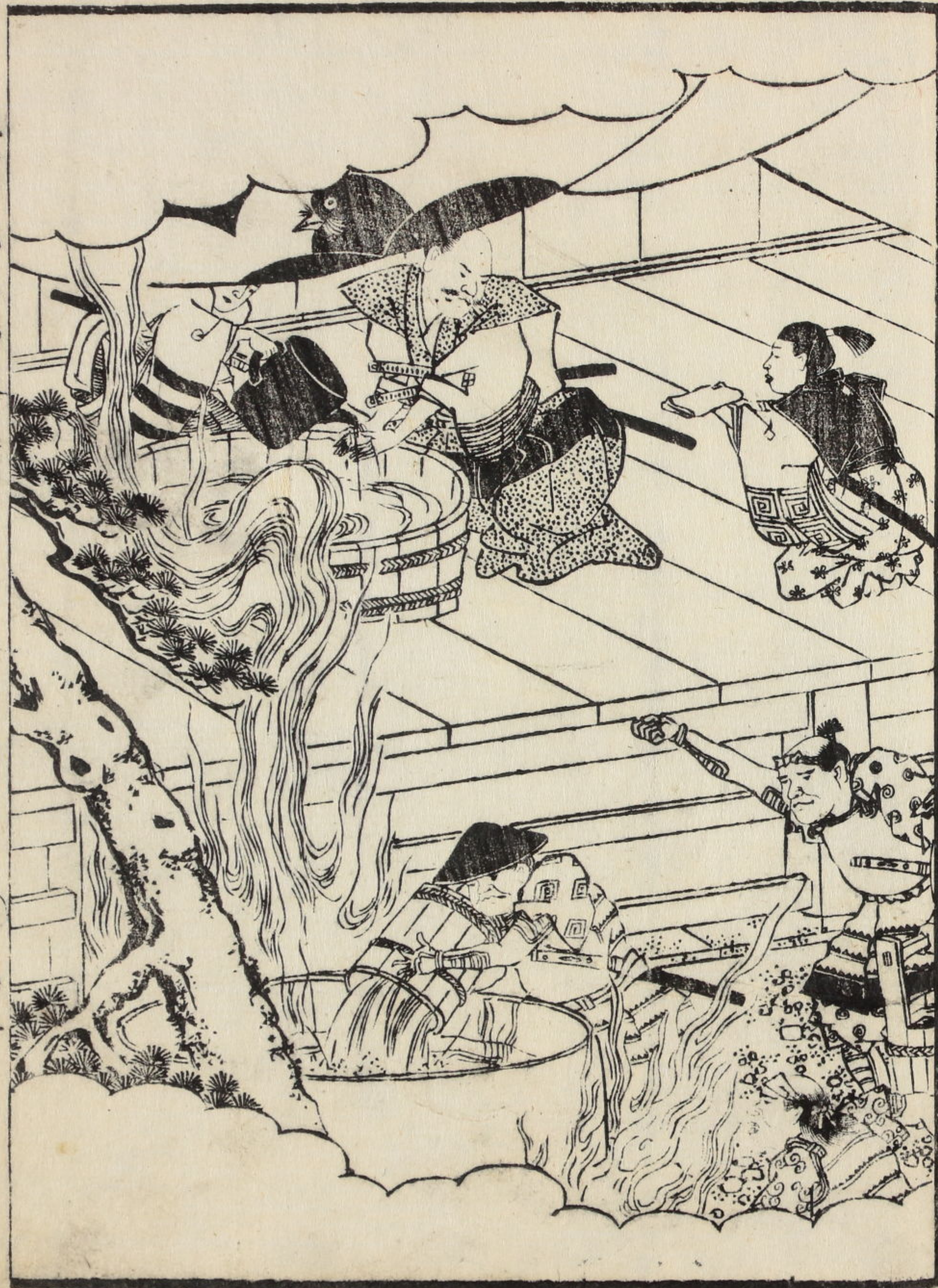




小説氣を添ふなり。と落び香光寺の城を圍む。遠くは細民は  
 群の中より驚く。死者あり。進み出く。松乃さやう。當城小弁  
 の泉なく。藁昔より算あう。城中の水を堰。堰をり。今も定め。厭  
 あら。つた小備遠連筒を截落さ。城中忽地渴死をぐ。と云。仕  
 さる。を新大忠つ。宜くも。専容う。う。と。と。郷民を導指者とし。  
 城は背踏小攀廻。ま。樹間岩間を穿。う。大樹の算。を。推。う  
 一。つ。や。是。こそ。城。中。の。命。は。斷。新。截。る。も。勵。め。ぐ。と。自。他  
 とも小芥滅。う。ち。振。く。難。形。く。提。を。欣。落。う。り。頃。ハ。六。月  
 の。物。あり。暑。氣。冷。々。と。烈。く。ら。ま。六。城。中。定。めて。水。小。渴。く。難。免。を  
 らん。と。お。り。ひ。の。外。を。し。も。窮。ま。る。幸。色。なく。昨日。小。備。ら。で。拒。抗。と  
 して。これ。ハ。柴。田。が。籠。城。の。ま。じ。め。算。を。う。り。水。中。の。始。終。危。く。いと

あらんと井と。と。四。箇。所。小。穿。せ。る。也。算。の。水。を。斬。り。とも。さ。の。と  
 困窮せ。う。り。を。新。とも。知ら。む。六。角。方。ハ。定。め。て。落。城。を。死。小  
 あり。攻。隊。の。名。士。を。勞。ま。る。ハ。亦。て。自。軍。の。こ。め。あ。ら。じ。と。軍。を。止。く  
 窺。待。態。ども。城。中。弱。く。態。の。入。ぬ。を。兼。須。訪。し。と。平。井。神。助。を  
 使。こ。し。て。城。中。へ。さ。し。遣。え。し。勝。家。小。對。面。し。て。數。日。の。籠。城。防  
 禦。の。術。小。く。弓。箭。の。位。ハ。顯。色。い。を。登。の。設。象。を。失。く。ん。より。城。を  
 開。く。邊。を。あ。き。御。も。非。通。り。と。あ。じ。と。入。道。の。口。快。を。深。々。れ。は。猪。家  
 使者。小。卷。て。回。ら。く。斯。穿。城。を。つ。ら。ま。り。も。勝。家。一。個。の。勇。の。と。あ。ま。を  
 老。黨。侮。ま。せ。も。一。致。し。て。城。を。臺。所。と。お。り。以。定。め。防。禦。を。し。は。る  
 事。お。れ。は。更。候。の。北。軍。も。よ。く。听。せ。此。より。邊。を。ま。ま。と。と。听。く  
 神。助。相。意。は。別。群。を。救。く。とも。奉。り。兎。從。小。洗。水。を。と。れ。ば。





城<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>渴<sup>かつ</sup>ふ<sup>の</sup>臨<sup>りん</sup>ぞ<sup>と</sup>  
 六<sup>ろく</sup>角<sup>かく</sup>の<sup>の</sup>使<sup>し</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>と</sup>  
 欺<sup>あざむ</sup>く<sup>く</sup>

忠臣蔵三巻目



柴田が兎從實と投て大西小清水を、漫く汲盛二個して昇出  
し来て神助小洗子をつらを、残し一水を椽より洞庭へ撒き  
たて、神助を流月小見行、諸の城中、今りて水小窮せぬ  
曉、蹊あり。心得をとい思ひながら、商殿を歩出しか、梅裏の洞庭  
を、ついで流き、おまこの、駿卒裸小あり。沐浴つゝて、さふし  
も、渴せし、態なり、平井まさしく、軻果て登り、木陣小、こら、陣を、兼  
領の常一、出て柴田が、返答目、の、城中の、曉、漢を、告、つゝ、入道  
案、小相違して、新、つゝ、外小方便、と、と、評、漢の、と、と、徒、小、西、日  
と、過、つゝ、と

秀吉智計棄魏の救柴田属勝家破蒲

る、石の、寛、勇、源、義、底、を、知ら、む、然、バ、遠、時、に、別、なる、信、長、不、欣  
の、城、の、小、の、佐、久、間、安、藤、森、稻、葉、丹、羽、を、どの、の、諸、豪、傑、を、の  
不、持、小、女、と、い、ふ、も、一、揆、諸、方、小、蜂、起、して、諸、城、を、攻、む、の、を、調  
られ、バ、つ、ぎ、の、諸、將、も、城、を、出、く、柴、田、を、救、ふ、事、を、得、を、手、小  
汗、握、く、在、り、つ、ら、が、こ、ろ、小、木、下、藤、吉、高、へ、長、濱、の、城、小、女、を、攻、  
道、徳、小、正、廉、を、由、へ、百、姓、都、て、心、服、し、け、ま、六、他、河、の、一、揆、も、長  
濱、領、を、犯、さ、む、偶、々、犯、を、り、け、お、ま、バ、領、民、渠、俣、を、制、し、止  
む、こ、ま、小、より、て、木、下、秀、吉、長、光、寺、の、柴、田、を、救、ふ、べ、し、と、て、諸、士、を  
集、め、て、謂、つ、ら、ゆ、う、勝、家、已、ま、を、嫌、が、由、小、日、兼、不、使、あり、とい、共  
に、と、て、これ、を、外、面、小、見、く、明、筆、の、好、を、棄、つ、れ、や、今、長、光、寺、落  
城、せ、バ、柴、田、必、定、戦、死、と、べ、し、見、報、し、小、せ、バ、不、忠、あり、不、信、あり、自

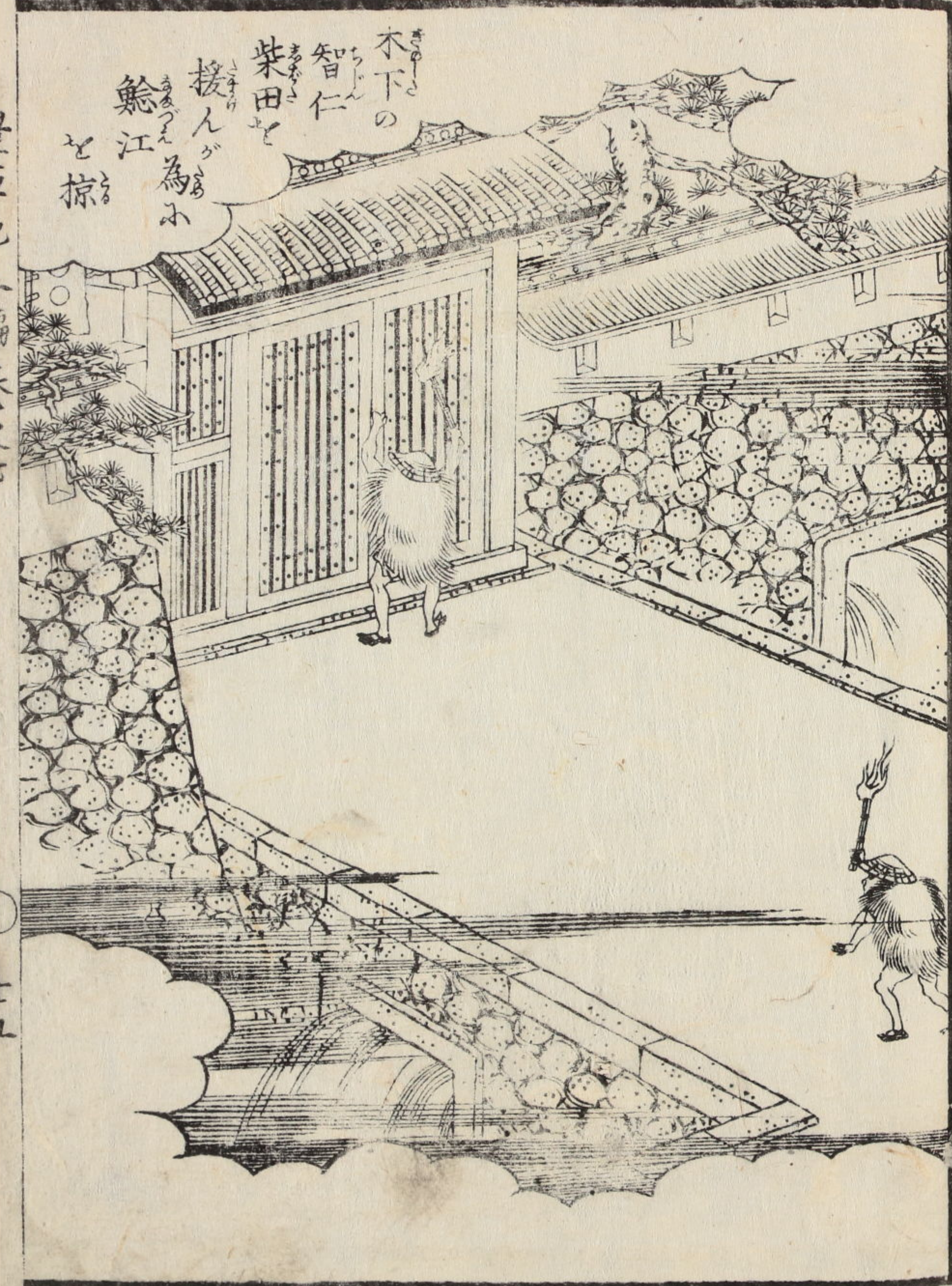


軍も大小脱氣を折入。頑て蹠蹠を掃らざる。小昨今水の渚  
 と断を落城目暮小左とつり先救せんぞと自勝を勝り。長  
 淡城をうち起るるが頭小思案しるるや。猪家とを好む怨た。  
 仇讐の如く小おのり。我今長光寺を救ふらる。こませりつるに  
 かりとして。まましく遺恨小おのり。然バ柴田の脅力少て進  
 の退散さし。さやう小謀ふべしと工支せられ長淡城の百姓を  
 二百人ほど強集め一揆の魁小打拵せ。路轉行て六月二日夜も  
 ちや亥中の刻頭ありしが義復入道の借小居住を。鯨江の城  
 江別の(走向ふ既小城門際をくをせより。百姓軍小呼せてさ  
 井城の)やうこれの素より六角殿へ河自軍の寄一揆あるが。このこび  
 長光寺の柴田勝家水江路を断絶させ穿城りひびきたる

より人質を出して證とらし。降参せんと願ふ。さきども、六角殿少  
 疑がらせらる。まづ其人質を當城小誓居言瀬刀孫小心を  
 けて。守護あるとの河院小より。人質の輩を百俣とす。徳雨  
 なる一と呼をらし。當城の留居高瀬刑部門の寨樓小走登  
 り。仔細城外を視新せ。備からぬ一揆あり。佐々木の璽紋を印  
 して。意小疑がらむ。面道の門をうち開き。二百余人は  
 揆軍を城中へ招寄。柴田が人質受らんと小心もなく。出逢ふ  
 と百姓が中小義を言りて。身を殺し。堀尾輝次賀喜山を  
 の諸勇士徹達へ。武士を斬倒し。まづ次投といふま。小四方八面  
 へ強まる。その尾小属する二百余人竹槍うち振り。喊をつら。虎瓶  
 借勢のさなをな。思ひの随小捲られ。城中大小慌忙とす。持

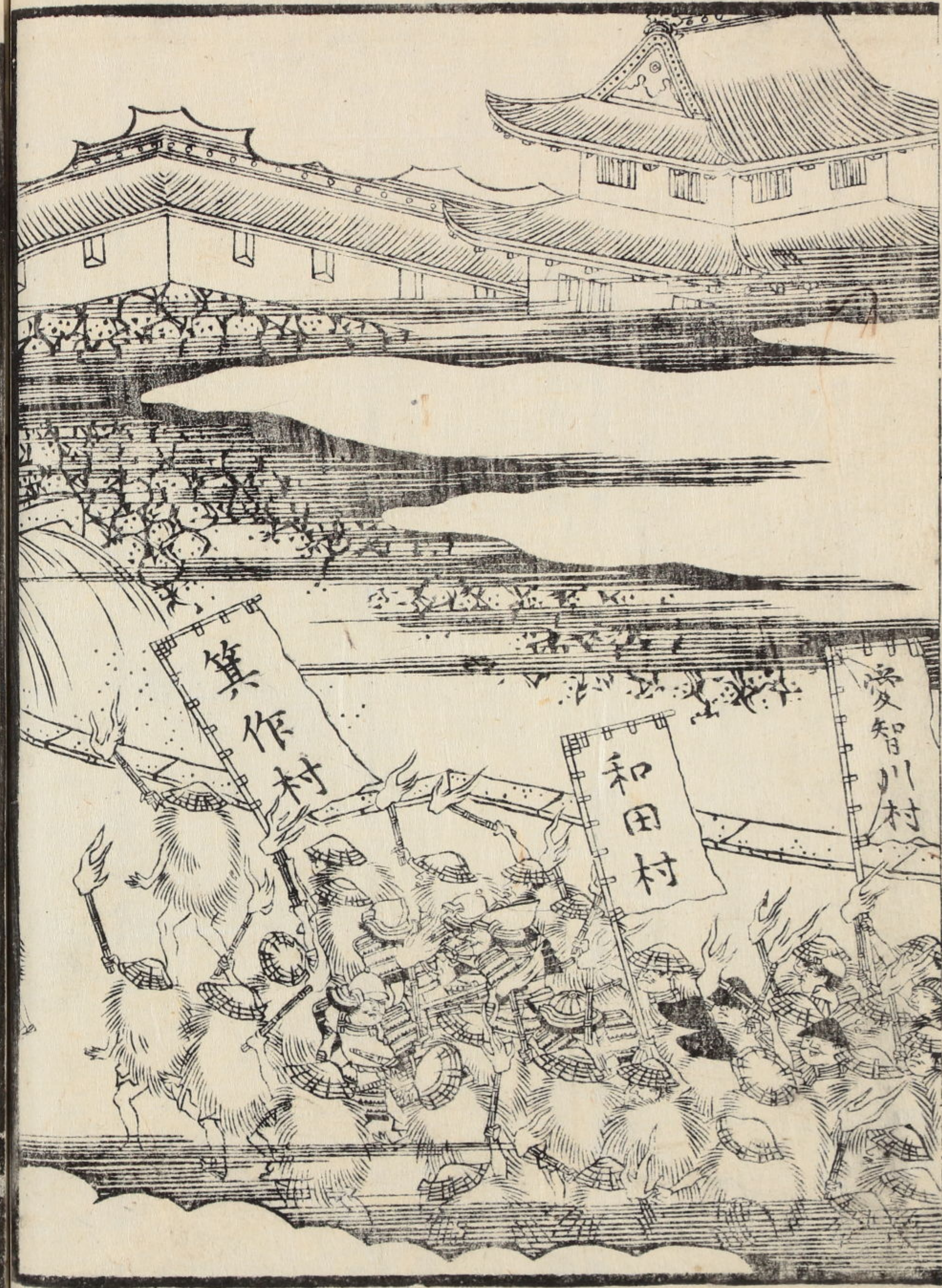
豊臣記三編卷之七





豊臣記三編卷之七

五



豊臣記三編卷之七

四



下首ゲノウとて悉く地ちころへ木下藤吉フジキ千余人せんにんして鎮ちんくと推登おしあがり。  
 隊伍たいぎ系けいを攻投せめりは是こゝに城しろをまてて糧りやう糧りやうを呼よぶ。  
 難がたを備そなへて拒抗きそげやと聽きに相撲さむを設おく。衆しゆ指揮し揮ひ。  
 せみせども留とどまらむ。二日の夜よ半はんの闇くらさるるし。いづれが敵てきを  
 自軍じぐんやら。視決しけつむる陣じんありごとく。劇あそつるをくりありはむ。敵てき對たい  
 公軍こうぐんあらばこそ。右横うぎやう左横さぎやう小落せうらく水みづ秀吉ひでよし指揮し揮ひして逃に  
 ると逐おつるを意いの隨ま小落せうらくなる小せう落らく。方はう儀ぎを城じやう中ちゆう小止せうしま  
 華はな百騎ひやくき小余せうよらざりはむ。苗な吉きちの大將たいしやう聽きに瀨せ信のぶとく  
 籠城ろうじやうなるひびく。從しゆ大敵たいてき小捕せうと頼たのらむ。徒いと換かせんも朽く憾がん  
 々々一應いつおん落らくたるも右みぎも沈しん吟いんせむ。やと陣じん後ごなる。敵てきは逃に  
 せぬを壁かべして遁出にんしゆする。かどふ。方はう儀ぎの城じやう中ちゆう一人ひとりも遮さつる

軍ぐんもなかりし。木下藤吉フジキの城じやうを攻せめむ。藤吉フジキの城じやうを攻せめむ。  
 是こゝに平井へいゐ神助かみすけ長光ながみつ寺てらへ來きりし。八や日にち後ご半はんにして。依より來きの使者しやと  
 小指せうさし六勝ろくしやう家けの使者しや神助かみすけ歸かへりや。思案しあんを決けつして城じやう中ちゆう  
 諸士しよし群ぐん衆しゆを呼よび。領りやうへ兼備けんびし。兼備けんびし。之こゝに斛こく入にの  
 水筒みづづつを四よ五ごほど安やす排はい。こゝに小冷せうれい水みづを漫まん々と汲ひ容ゆるをく。備び  
 新あらたく。難がた城じやうやあらと。かひよ。違ちがひを。今日けふは。や井いの水みづも暑あつ中ちゆう  
 の天あまも小蒸せうままてや。吞のむ。既すでに。諸しよ士し小向せうかうふ。向むかふ。向むかふ。向むかふ。  
 勇ゆうの柴田しばた務家むせ。まじも屈くせむ。諸しよ士し小向せうかうふ。向むかふ。向むかふ。向むかふ。  
 我われも君命きんめい小せうより。當城たうじやう中ちゆう小せう將しやうとく。六ろく角かく燒や小捕せうと頼たのらむ。  
 遺いく突つ突つ決けつ戦せん。これに既すでに。小武せうぶ士しのなまむ。かど。做せ果くわせて今いま

書目言三續卷之七



天小至き。然る小昨今、珠中へ通さる連筒を斬落さる。群衆  
 水小困窮を。些微の井水をやのそても。暑次分小烈しくして。泉  
 源涸まり。痛こと微し。秋のきき力も頼小。誓へ軍威も減さる。道  
 理あり。今天もを雄しく。防戦せしむ。これ一人の驍力小あり。を  
 全く。驍卒も侍士も。君の祈恩を蒙り。かりひ弓箭の道を汚さじ。  
 と心小決思し。由へぞし。遠城廓をよ。守り自他。己も小運を用  
 く。君の祈願小入。ままわりせ。恩賞の地を蒙り。うけ。各の功を。附  
 とべし。と昨日までも思極し。小俺們が運命もや。そく。水涸を  
 破ら。も惣構へ。糸。百ら。本丸をう。せ。ち。とも。援助の將佐  
 も。出来ら。む。此期小。及んで。渴死さ。る。も。勇士の好まぬ。死あり。然して  
 又。珠を用き。敵小降も。朽。憾し。各の心。を。い。る。る。此勝家。の。心。を

決し。今宵。敵の陣へ。攻。投。かり。ひの。随小。血戦。なり。下小。一も。運。を  
 く。驍卒小。敵を。退散。さ。る。再び。城を。固く。守り。て。君の。出馬。を。ま。ち  
 申さん。死生。ハ。今宵。の一。擧。小。あり。我。と。同心。さ。る。人。の。と。く。侍。て。この  
 水。を。意。の。随。小。各。玉。へ。原。の。水。を。貯。へ。い。火。矢。など。防。ぐ。ん。あ。り。あ。り  
 しが。方。僅。の。用。な。り。の。小。あ。り。う。る。も。立。侍。る。吾。も。よ。と。大。音。声。小  
 下。禱。し。ま。さ。る。大。將。軍。も。宣。了。の。を。一。個。命。を。惜。ま。命。せ。し  
 背。き。ま。り。ま。さ。る。我。こ。そ。魁。戦。さ。る。ま。ま。魁。へ。吾。んと。異。口。回。さ。る。小。我  
 も。く。と。起。寇。了。起。抄。か。つ。把。巻。さ。る。る。備。家。共。先。爾。と。う。ち。笑。ひ  
 遠。勢。小。く。吹。く。出。な。い。う。あ。る。天。魔。修。羅。王。ま。ま。怖。く。と。こ。流  
 掌。て。な。し。と。繞。ら。ち。つ。な。な。指。揮。を。餘。れ。る。水。を。馬。は。洞。一。め。  
 後。常。如。死。し。め。か。の。く。突。起。噫。愉。は。や。此。上。の。所。時。も。早。く。う。ち



勝家水筒を破く  
自軍小勇を極む

実説桶のつとむ  
流俗まふ瓶破柴  
田のい傳の森りてらふ  
瓶の子





發之<sup>ひら</sup>多<sup>く</sup>と<sup>も</sup>勅<sup>し</sup>む<sup>る</sup>詞<sup>ことば</sup>小<sup>こ</sup>權<sup>ごん</sup>六<sup>ろく</sup>舟<sup>ふね</sup>を<sup>を</sup>と<sup>り</sup>て<sup>て</sup>繞<sup>まわ</sup>ん<sup>で</sup>四<sup>し</sup>方<sup>ほう</sup>を<sup>を</sup>視<sup>み</sup>じ<sup>し</sup>。  
 門<sup>かど</sup>く<sup>く</sup>水<sup>みづ</sup>小<sup>こ</sup>能<sup>あた</sup>る<sup>る</sup>体<sup>てい</sup>あり<sup>り</sup>。此<sup>こゝ</sup>上<sup>かみ</sup>ハ<sup>ハ</sup>唯<sup>ただ</sup>款<sup>くわん</sup>小<sup>こ</sup>向<sup>むか</sup>ひ<sup>ひ</sup>戦<sup>いくさ</sup>死<sup>し</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>没<sup>ぼつ</sup>を<sup>を</sup>身<sup>み</sup>  
 じ<sup>じ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>遠<sup>とほ</sup>水<sup>みづ</sup>箭<sup>や</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>り<sup>り</sup>せん<sup>ん</sup>先<sup>ま</sup>祭<sup>まつり</sup>軍<sup>ぐん</sup>の<sup>の</sup>奉<sup>ほう</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>さ<sup>さ</sup>め<sup>め</sup>小<sup>こ</sup>亦<sup>また</sup>破<sup>やぶ</sup>らん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>大<sup>おほ</sup>  
 力<sup>ちから</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>挿<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>吹<sup>ふ</sup>放<sup>はな</sup>す<sup>す</sup>ハ<sup>ハ</sup>利<sup>り</sup>利<sup>り</sup>と<sup>と</sup>一<sup>ひと</sup>聲<sup>こゑ</sup>響<sup>ひび</sup>く<sup>く</sup>挿<sup>さ</sup>板<sup>いた</sup>  
 八<sup>や</sup>方<sup>ほう</sup>小<sup>こ</sup>散<sup>さん</sup>乱<sup>らん</sup>と<sup>と</sup>情<sup>なさけ</sup>味<sup>あじ</sup>よ<sup>よ</sup>け<sup>け</sup>小<sup>こ</sup>碎<sup>くだ</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>鞭<sup>むち</sup>と<sup>と</sup>大<sup>おほ</sup>笑<sup>わら</sup>ひ<sup>ひ</sup>し<sup>し</sup>昂<sup>あがり</sup>便<sup>べん</sup>馬<sup>ば</sup>小<sup>こ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>  
 う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>渡<sup>わた</sup>り<sup>り</sup>籠<sup>かご</sup>く<sup>く</sup>懸<sup>か</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>馳<sup>は</sup>り<sup>り</sup>去<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>。方<sup>かた</sup>儀<sup>ぎ</sup>猪<sup>ぶ</sup>家<sup>か</sup>が<sup>が</sup>挿<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>碎<sup>くだ</sup>る<sup>る</sup>出<sup>い</sup>軍<sup>ぐん</sup>を<sup>を</sup>せ<sup>せ</sup>し<sup>し</sup>  
 心<sup>こゝろ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>小<sup>こ</sup>使<sup>つか</sup>率<sup>りつ</sup>小<sup>こ</sup>必<sup>かなら</sup>死<sup>し</sup>の<sup>の</sup>意<sup>い</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>し<sup>し</sup>勇<sup>ゆう</sup>氣<sup>き</sup>を<sup>を</sup>烈<sup>はげ</sup>ま<sup>ま</sup>さん<sup>ん</sup>が<sup>が</sup>為<sup>な</sup>す<sup>す</sup>也<sup>なり</sup>  
 と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>故<sup>ゆゑ</sup>小<sup>こ</sup>こ<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>

繪本豊臣勲功記二編卷之七終



